

シンポジウム「精神障害者の地域生活支援」ご報告

(左から田尾氏、佐藤氏、門屋氏、柳沼氏、藤木氏、佐々木氏)

1. 日時 平成20年2月11日(土) 10:00~17:00

懇親会 17:30~19:30

2. 場所 調布市グリーンホール 小ホール

3. 参加者 計225名

内訳: 参加者 173名

スタッフ・講演者 52名

* シンポジウム終了後、同会場で懇親会を実施(48名参加)

4. シンポジスト

野崎伸一氏(厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課課長補佐)

塩田幸雄氏(独立行政法人福祉医療機構理事)

菊本弘次氏(東京都福祉保健局障害者施策推進部参事)

山本雅章氏(調布市福祉健康部障害福祉課課長)

酒井利高氏(三鷹市健康福祉部調整担当部長)

天野聖子氏(社会福祉法人多摩棕櫚亭協会)

寺田悦子氏(NPO法人多摩在宅支援センター円)

太田秀夫氏(社会福祉法人共生会)

田尾有樹子氏(社会福祉法人巣立ち会)

今回のシンポジウムは、「精神障害者の地域生活支援～新体系へ移行した事業所からの報告～」をテーマに、行政からの報告・地域で特色ある活動を展開している団体からの実践報告・講演者によるパネルディスカッションと3部構成で行いました。精神障害者の地域生活を様々な立場・多角的な視点から検討し、講演者・聴講者の双方で福祉サービスの発展を図る会とすることが出来ました。都内のみならず全国各地からの問合せも多く、当日来場者は173名と、大盛況でした。地域の福祉施設職員をはじめ、病院・行政関係者の方も多くご聴講頂き、テーマへの関心の高さを実感致しました。



(左から、野崎氏、塩田氏、山本氏、酒井氏)

地方自治体の現場からは、障害者の地域移行の現状・今後の取り組みに加え、地域サービスのマネジメントとネットワークの重要性が強調されました。

実践報告では、昨年4月から新体系へ移行した団体から活動の報告が行われました。



天野氏：「就労移行支援事業に移行し、より広範囲の就労支援をすることを目指している」と、自立支援法への移行に際して取り組んだ課題・成功の実感など語られました。

寺田氏：「昔から、地域と病院の間には深く暗い川がある。訪問看護ステーションは、そうした医療と福祉を結ぶ為に立ち上げた」と、病院と地域との連携の重要性と訪問看護の活用の必要性を説いて下さった。

太田氏：「自立支援法に移行し、各事業の収益は上がり安定している。利用者間の給料の差が今後の課題」と、利用者に還元できる事業所を目指していく意気込みに力強さを感じました。

田尾氏：新体系における当会の特徴、就労継続支援B型に移行した理由など、昨年4月から攻めの姿勢で取り組んできた成果を報告し、「N Oと言わない作業所であり続けたい。利用者を選択されるサービスを目指します」と。それぞれの地域で展開されている特色ある実践報告に、会場の皆様も熱心に耳を傾けておりました。



(左から、田尾氏、太田氏、寺田氏、天野氏、山本氏)

ご参加下さった皆様、ご協力頂いたシンポジストの方々、また後援や支援を下さった関係機関の皆様、本当にありがとうございました。(栗原)